



▲バーンチャン校では、たくさんの人に歓迎されました

八千代こども親善大使が バンコク都を訪問



八千代こども親善大使一行が、1月22日～29日に7泊8日の日程でタイ王国バンコク都を訪問しました。八千代市とタイ王国バンコク都は、平成元年からこども親善大使による相互の交流を続けており、今回で33回目の訪問となりました。

12人のこども親善大使を派遣

今年度のこども親善大使は、市内の小学5年生と中学2年生を対象に募集を行い、約1,500人の中から選ばれた小学生9人と中学生3人です。昨年8月から、事前研修でタイについて調べたり、タイ語の学習に取り組むなど準備を進め、八千代市とバンコク都との友好の架け橋としてバンコク都を訪問しました。

表敬訪問などを通じて 互いの国の理解を深めました

バンコク都知事や都議会議員への表敬訪問では、都知事や議員の前でタイ語で自己紹介を行いました。また、タイで人気がある日本の食べ物やタイの産業、日本に対する印象などについて質問しました。

学校交流会で訪問したバーンチャン校では、日本とタイの国旗を手にした児童・生徒から歓迎を受け、伝統舞踊や料理、ムエタイなどさまざまな授業を体験しました。初めて見る楽器や見慣れない文字の書き取りなど、

タイの児童・生徒に教わりながら、交流を通して互いの国への理解を深めることができました。八千代こども親善大使からは、日本に関するクイズやソーラン節を披露し、会場は大いに盛り上がりました。

ホームステイで体験した タイでの生活

親善大使は3泊4日のホームステイも経験し、家族の一員としてタイの生活に触れる貴重な体験もできました。温かく迎えてくれたホストファミリーと、心の触れ合いを通じて絆を深められました。最後の夜にはさよならパーティが開催され、交流の証として歌い継がれてきた「心に花を」を歌い、互いに別れを惜しみました。

2月16日に開催された帰国報告会では、お互いの文化を知って認め合うことの大切さを周囲の人たちにも伝えていきたいと、力強く語る姿がありました。勇気を持って新しいことに挑戦し、仲間と一緒に広い視野で日本や世界について考え、大きく成長した親善大使

たち。ジェスチャーなどで思いを伝えていくうちに、お互いを理解することができ、友情が芽生えました。こども親善大使を通じて、日本とタイ王国に広がる友情の輪は、これからも広がり続けます。

タイで学んだ大切なこと

親善大使代表

八千代中学校2年

宮川 結衣さん



楽しかったことも、大変だったこともたくさんあったタイへの派遣で、私はさまざまなことを学びました。その中でも一番大切なことは「繋がることに言葉は必要ない」ということです。日本へ帰る前日、タイの子と一緒に踊ったり歌ったりして最後のひとときを楽しみました。短い期間だったけれど、いろいろな想いが込み上げ涙が溢れてしまいました。タイの子は何も言わずに、ただただ抱きしめてくれました。そこに言葉はありませんでした。言葉とは一見繋がることに不可欠なツールにみえても、実はそうではないことに気づくことができました。

今回タイを訪れたことは、私にとって言葉や形に表せない大切な思い出です。



▲バンコク都知事訪問時の記念撮影



▲アユタヤ遺跡でタイの歴史に触れました



▲学校交流会では、伝統楽器の体験やタイ語の書き取り練習などを行いました



▲さよならパーティーでは両国の言葉で一緒に歌いました

この特集のお問い合わせは
シティプロモーション課 ☎421-6703へ

広告